

5万分の1地質図幅「二本松」

阪口圭 一¹⁾

「二本松」ってどんなところ？

地図を見ていると“○本松”という地名によく出会います。昔から松の木は集落や分かれ道の目印として使われていたのでしょう。ここで紹介する「二本松」地域は、福島県の福島市と郡山市の間に位置しています。福島-二本松-郡山と続くいわゆる福島県の中通り地域は、東の阿武隈山地と西の脊梁山地に挟まれた低地帯ですが、二本松地域は北側の福島盆地や南側の郡山盆地に比べて標高のやや高い丘陵地帯で、その中を阿武隈川が北流しています。図幅のほぼ中央にある二本松市には高村光太郎の妻智恵子の生家があり、“あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川…”と「智恵子抄」にうたわれた舞台

として知られています。

「二本松」地域に分布する多様な時代・種類の地層・岩石(第1表)の中から、以下に「二本松」地域を代表する地層・岩体を3つ紹介しましょう。なお、この小文ではスペースも限られるため、個々の引用文献は省略したことをお断りします。

阿武隈変成岩類・阿武隈花崗岩類

「二本松」地域で最も古い岩石である先白亜紀変成岩類と白亜紀花崗岩類は、それぞれ、阿武隈変成岩類、阿武隈花崗岩類と呼ばれているものの一部です。変成岩類は泥質・苦鉄質結晶片岩の互層とそれに貫入する超苦鉄質岩類からなり、図幅中央部を最大幅4kmで南北に分布しています。花崗岩類は図

第1表 「二本松」地域の地質総括表

地質時代		地質区分及び放射年代		主岩相(岩質)		
第四紀	完新世	沖積層		礫・砂・泥		
	更新世中期	安達太良火山噴出物	扇状地及び段丘堆積物	溶岩・火砕流堆積物・ 降下堆積物(大部分Ap)		
				礫・砂・泥		
更新世前期	西鶴川安山岩 1.46Ma	伏拝岩層なだれ堆積物	溶岩(Ap)	岩層		
第三紀	鮮新世	横間層 (横間カルデラ) 5.3Ma, 5.0Ma	笹森山安山岩 2.37Ma	溶岩(Ap)		
			松川層	砂岩・シルト岩・溶岩(Ap)	凝灰質砂岩・シルト岩	
	中新世	高玉層 (高玉カルデラ) カルデラ形成期の地層	大名倉山安山岩 7.6Ma	溶岩(Ap)		
			後カルデラ期の地層 8.4Ma, 8.2Ma	砂岩・シルト岩・ 凝灰質砂岩・溶岩 (R, Ap, Dp)		
				火砕流堆積物(R)		
中期		岩倉層	砂岩・シルト岩・溶岩 (Rb, D)			
白亜紀		花崗岩類 111Ma, 90Ma	角閃石黒雲母花崗閃緑岩・黒雲母花崗岩・ 白雲母黒雲母花崗岩			
先白亜紀		変成岩類	超苦鉄質岩類	黒雲母片岩・黒雲母石英片岩・ 角閃石片岩・角閃石		

A: 安山岩, D: デイサイト, R: 流紋岩
b: 黒雲母, p: 輝石

1) 地質調査所 地殻熱部

キーワード: 5万分の1地質図幅, 二本松, 阿武隈変成岩類,
阿武隈花崗岩類, 高玉カルデラ, 安達太良火山



第1図 5万分の1地質図幅「二本松」

幅範囲の東3分の1および図幅中央部の岳温泉周辺と図幅西縁に分布しています。変成岩類に貫入し、熱変成を与えています。花崗岩類については1億1千万年-9千万年前という放射年代測定結果が報告されています。

高玉カルデラと高玉鉱山

「二本松」図幅の調査によって、図幅地域の南西

1996年2月号

部には約800万年前にできた直径約15 kmのカルデラの存在が明らかになり、高玉カルデラと命名されました。この地域にはカルデラ形成時に噴出した火砕流堆積物、陥没したカルデラを埋めたカルデラ湖埋積堆積物と後カルデラ火山岩が分布します。現在の地形からはカルデラの陥没地形を読み取ることはできませんが、重力異常のデータには鍋底型の陥没

構造が明瞭に示されています。カルデラの中心からやや南寄りに、金 27 t、銀 270 t あまりを産出し、日本有数の金銀鉱山であった高玉鉱山が位置します。最近の研究では、高玉鉱床は後カルデラ期の火成活動によって地下浅いところで形成された温泉型金鉱床ととらえなおされています。

安達太良火山

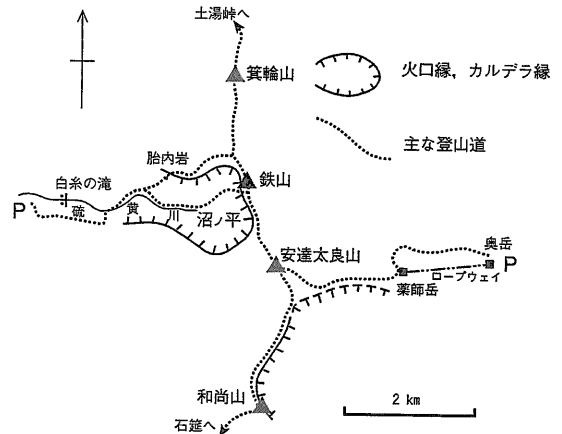
「智恵子抄」にもうたわれ、「二本松」地域の北西部を占める安達太良山は東北日本脊梁山脈上に並ぶ活火山のひとつです。噴出物のほとんどは輝石安山岩で、ごく少量の玄武岩を伴っています。放射年代測定値から安達太良火山は約80万年前に活動を開始したと推定されます。活動の中心は鉄山付近(?) →和尚山→鉄山-安達太良山および箕輪山と移動し、南北に連なる箕輪山・鉄山-安達太良山・和尚山の各山体が形成されました。最新の活動は山体中心部の沼ノ平火口で起きています。江戸時代以前の確実な噴火記録は残っていませんが、1899-1900年(明治32-33年)には活動が活発化し、水蒸気爆発によって当時沼ノ平火口にあった硫黄鉱山の従業員70名余りが死亡する惨事となりました。その後は1950年に小爆発を起こした程度ですが、現在も沼ノ平火口の西縁部で弱い噴気活動が続いています。

以上、「二本松」図幅のトピックスをご紹介します。ここでご紹介できなかった部分については地質図や説明書を一度見ていただければ幸いです。

安達太良火山の巡検コース

安達太良火山への主な登山ルートには東側の奥岳から登るルートと西側の白糸の滝から登るルートの2つがあります(第2図)。

奥岳ルートは稜線を登るもので、安達太良火山の山容を楽しむコースといえます。登山道沿いに露頭はありませんが、鉄山-安達太良山の東側の溶岩流



第2図 安達太良火山の巡検ルート

地形や南側の和尚山の山体崩壊でできたカルデラ地形などが観察できます。数年前に奥岳と薬師岳を結ぶロープウェイができて登山がずっと楽になりました。安達太良山まで登って余裕があれば、尾根線を北にたどり、沼ノ平火口の景色や鉄山の噴出物を見ることをお勧めします。直径1000 m 余り、深さ約200 m、変質のために真っ白になった沼ノ平火口の偉容は一見の価値があります。

白糸の滝ルートは硫黄川に沿って谷底を行くもので、こちらは露頭がふんだんにあります。往きは途中から胎内岩の方へ登り、沼ノ平火口の北側を通って鉄山へ、余裕があれば安達太良山まで足をのばし、帰りは鉄山から沼ノ平火口底に下りて硫黄川沿に白糸の滝に戻るといのがお勧めのコースです。白糸の滝では柱状節理の発達した溶岩流の断面、胎内岩では溶結火砕岩、沼ノ平では火口湖を埋めた堆積物、など様々な露頭に出会います。

安達太良火山の周りには火山の恵みである温泉が多数あります。巡検の後のはのんびり温泉につかってリフレッシュするのも良いでしょう。